

# 2025年度事業報告

特定非営利活動法人WE 21 ジャパン都筑

## 事業概要

2025年度のWE 21 ジャパン都筑の活動は、5月のWE講座“アフガニスタン「女性たちの学校」の今”でアフガニスタンの支援先とオンラインで繋いでお互いに顔を見せながら現地とつながることができた画期的な講座で始まりました。

WEショップつづきのショップ運営では、ボランティアにシフト制を導入し、運営委員のいない時間帯でもショップ当番に入れるメンバーが増え、ボランティアのショップへの関わりがこれまで以上に高まりました。その結果、WEショップつづきの年間の売上高も、目標、前年をともに上回り、地域で循環の輪を広げてきていることを実感できました。

## 事業報告

### 1. 資源のリユースリサイクルを推進する事業

2025年度リユースリサイクル売上 5,517,764 円（目標比 100%、前年比 102%）

2025年度ショップボランティア 新規登録 5名

※月ごとの詳細は2025年度活動実績を参照

実績	売り上げ	顧客数	ボランティア延べ（実人数）	寄付者（新規）
2025年度	5,517,764 円	6,563 人	746 人 (28 人)	1694 人 (75)
2024年度	5,415,489 円	6,615 人	649 人 (29 人)	1959 人 (77)
前年比	102%	99%	115% (97%)	86% (97%)
2019年度	5,339,913 円	6,797 人	753 人 (19 人)	1853 人 (88)

- 1) 年間計画通りに活動することができました。年3回のセール及び着物フェアは十分な換気を行い入店制限を実施したうえで開催しました。雨の日対策として、6月に「雨の日ラッキーくじ」を実施、顧客数の落ち込みを防ぐ努力をしました。毎月1日、15日に何かがお得になる「わくわくデー」は定着し、毎回楽しみにしているお客様が多く来店されています。

	売上	顧客数	前年比
アニバーサリーセール	256,890 円	311 人	97%
夏のセール	202,547 円	238 人	95%
着物フェア	258,248 円	121 人	116%
冬のセール	220,520 円	270 人	93%

- 2) 様々な寄付品を整理・管理し、従来の「衣類・雑貨」というくくりを越え、季節感はもちろん、桜や猫などのモチーフ、春のインテリア・秋のお出かけといったテーマを設けた売り場づくりをし、商品が最大限魅力的に見えるような陳列をしました。また、テーマに沿った雑貨は、ある程度集まるまで待ち、まとめて陳列することで、お客様の選択肢を増やし、わくわく感を持ってもらえるよう工夫しています。売り場の整理整頓を心掛け、お客様が手に取りやすく、買い物がしやすくなるよう努力しました。
- 3) 公式ラインやインスタグラムをショップの情報発信に役立て、それをきっかけに多くのお客様が来店されています。公式ラインのお友達登録数は280名近く(前年比112%)になり、たくさんのお客様にショップの情報を直接届けられる有効なツールとなっています。ショップ企画のお知らせだけでなく、魅力的な商品などをアップし、「公式ラインのお知らせが来るとショップに足を運びたくなる」という声を多数いただき、スタッフの励みにもなっています。
- 4) 夏の厳しい暑さの時期に「ひと休みスポット」を作り、暑い中来店したお客様が座って涼めるようにしました。売り場の一部を休憩場所にする試みはお客様にも好評でWEショップが一般のリサイクルショップとは違うことをお伝えできたように思います。また、7年目となった「おさがり交換会」は生活クラブのチラシに取り上げられ、チラシを見て来店した組合員にプレゼントをお渡しするコラボ企画となりました。タウンニュース、ロコっちなどのメディアに取り上げられただけでなく、子育て支援施設などにもチラシを置かせてもらうことで、WEショップを知っていただくきっかけとなっています。
- 5) 昨年度に引き続き、チラシを配架している地域施設からの紹介、ショップでの声掛けにより、5名の方を新しいボランティアとしてお迎えしました。下半期より、ボランティアにもシフト制を導入し、全員がシフト時間に従ってボランティア活動を行うようになりました。レジ操作や顧客対応等にも慣れてもらい、ボランティアだけでショップを運営する時間を増やすことができました。WEショップのことを知っていただくとともに、親睦を深められるようボランティアミーティングを開催しました。
- 6) リメイクチーム(メンバー10名)  
寄付された着物や手芸用品を活用し、リメイク作品として販売をしました。(116点 131,295円)  
毎月第4月曜日にリメイクチーム会議を開催し、リメイク作品を持ち寄りながら、合同で小物づくりや、リメイク講座を開催するなど、活発に活動を行いました。  
作品をナンバリングして、販売傾向などがわかるようにしました。
  - ・10月27日リメイク講習会「一緒に作りましょう 帯揚げで作る花束」参加9名
  - ・2月13, 14日 WE21 着物・リメイクフェア出店販売 63,170円
- 7) 資源の有効利用  
整理整頓を心がけ、衣類は季節ごと、雑貨は品目ごとにまとめて管理し寄付品が有効活用され

るように工夫しています。販売できず廃棄になるものを減らすため、「寄付していただきたい物・寄付いただけない物」のチラシを活用しました。公式ラインやインスタグラムを使い、広く商品情報を知らせるとともに、見切り品をまとめ売りや格安販売するなど、廃棄を減らす努力をしました。

ショップという拠点を生かし、羽毛布団の回収を行い、WEショップが資源の有効活用に取り組んでいることをアピールしました。WE 21 ジャパン・グループの一員として、家庭での使用済み食用油の回収に取り組み、「WE 油田つづき」を継続しました。

本年度も故繊維業者「ナカノ」を通じて衣類のリサイクルに努め、同社が開発したエコ手袋を販売しました。

■羽毛回収 2025年度 13.7kg (1kg以上10枚、1kg未満2枚、ダウンジャケット11枚)  
CO<sub>2</sub>削減量 24.1kg (前年比127%)

■廃食用油回収 2025年度 150kg (CO<sub>2</sub>削減量390kg) (前年比54%)

リサイクル提携先

古布 : ナカノ(株) 横浜市金沢区福浦2丁目8-8

廃食用油 : (株)ユーズ 東京都墨田区八広3-39-5

羽毛布団 : (一社)グリーンダウンプロジェクト 東京都北区田端6-4-22

【日時】 通年

【場所】 横浜市都筑区

【従事者】 運営委員6名 ボランティア37名

【受益対象者】 一般市民

【事業支出額】 5,407,704 円

## 2. アジア等における市民、とりわけ女性の生活向上と自立のための活動を支援する事業 (民際支援事業)

### 1) 民際支援事業

①一般社団法人平和村ユナイテッド「女性たちの学校」を2025年度の支援先としました。

タリバーン政権下で厳しい制限を受けながらもアフガニスタンで女性教育に取り組む「女性たちの学校」を支援しました。

よりいっそう困難な状況の中でも女生徒の安全を考え、学び、そして希望をあきらめずに活動が続けられるよう支援します。

5月講座開催時には募金箱を設置し寄付を募り、併せて助成金額としました。

助成団体：一般社団法人平和村ユナイテッド

事業名：「女性たちの学校」

事業内容：女性教育制限によって教育の機会を奪われている女性たちへの学校運営、また  
教員・運営関係者の雇用の機会

アフガニスタン内開設校の現地人件費、学校賃料、教材費用などへ支援

助成金額： 150,000 円

②特定非営利活動法人共同の家プランを 2025 年度の支援先としました。

近年、様々な生活上の問題を抱える人々、ドメスティックバイオレンスなどの暴力被害や人権被害を受ける女性や子どもたちが増加しています。

共同の家プランは被害から逃れて緊急一時避難所などを利用後、新しい生活を始める前の準備期間の場所として女性や子供たちが孤立することなく、安心して地域社会で新たな暮らしを築いていけるようにサポートしながら過ごせるステップハウスを運営しています。

助成団体：特定非営利活動法人 共同の家プラン

事業内容：ステップハウスの運営、日常生活の支援、行政など公的機関との調整

就労や転居など自立に向けた支援、女性や子どもへの地域での継続支援など

助成金額：50,000 円

③イラク・シリア支援 JIM-NETチョコ募金

店頭にてチョコレートを置き、募金を集めました。今年度も都筑区内の市民活動団体にも働きかけ、販売につなげました。イラクの小児がんの支援、シリア難民支援、JIM-NETハウスの運営、福島の子どもたちの支援に使われました。

募金先：特定非営利活動法人 日本イラク医療支援ネットワーク (JIM-NET)

事業内容：イラクの小児がんの医療支援・シリア難民医療支援・福島のこども支援

募金額：107,776 円

④ガザ募金

秋の支援キャンペーン「ガリラヤのシンディアナ〜パレスチナとイスラエルの架け橋となって」において、店頭募金を募り、またイスラエル大使への抗議葉書「ガザに平和を」を 100 円で販売しました。指定寄附も併せて募金しました。

募金先：特定非営利活動法人 日本国際ボランティアセンター (JVC)

事業内容：ガザの 2 つの現地パートナー団体と協働し、3 歳以下の子どもと保護者・妊産婦向け栄養支援、医薬品と粉ミルクの配布等

募金額：25,963 円

⑤フードドライブ フードシェア\*つづき

2021 年 4 月より、毎月 1 日～10 日に店頭でフードドライブを実施しました。お米、レトルト食品、お菓子などのほかに、生理用品などの生活雑貨の寄付も集まりました。フードシェア\*つづき利用者からは、「父子家庭で本当に助かります」、「3 人の子どもがいるので感謝しています」という声が寄せられています。フードシェア\*つづきの登録者は 91 家庭に増え、2026 年 3 月の受取り家庭は 46 家庭でした。年間ののべ受取り家庭数は 394 家庭 (昨年より+91) になり、地域からの温かい支援で活動が支えられています。

寄付先： フードシェア\*つづき (食品・雑貨 101.9kg 米 30.4kg)

助成金および募金の総額

	寄付金・助成金	募金	計
平和村ユナイテッド「女性たちの学校」	120,693 円	29,307 円	150,000 円
特定非営利活動法人共同の家プラン	50,000 円		50,000 円
JIM-NET チョコ募金		107,776 円	107,776 円
ガザ募金	20,000 円	5,963 円	25,963 円
ミャンマー地震募金		10,000 円	10,000 円
合計	190,693 円	153,046 円	343,739 円

## 2) 民際収益事業

### ① パレスチナオリーブオイル (常設) ・オリーブ石けん (常設) ・ザアタル(常設)

イスラエル・パレスチナの平和のために設立されたオリーブオイル生産団体のガリラヤのシンディアナのオリーブオイルとザアタル、パレスチナ西岸地域のナブルスで生産された石けんを店内で販売しました。

### ② 森育ちのしょうがパウダー販売 (常設)

フィリピンの北ルソンの山岳地域の3つの村の生産者組織が、収入向上と保健事業のために生産するしょうがパウダーを計画購入して店内で販売しました。

### ③ 森育ちのしょうがクッキー

森育ちのしょうがパウダーを原料とし、横浜市内の社会福祉法人が製造したクッキーを店内で販売しました。

### ④ 珈琲工場&百屋 (常設)

コーヒーの森事業で支援してきたフィリピン・ルソン島の山岳地帯にあるバアヤン村の森で育てられたコーヒーを店内で販売しました。

製品	支援団体	仕入額	販売数
オリーブ石鹸等オリーブ製品 ザアタル	合同会社パレスチナ・オリーブ	70,786 円	オリーブ石鹸 16 オリーブオイル 32 ザアタル 19 本 1
森育ちのしょうがパウダー	ウバパス/ダイヨコン/ランパダ/ シュントック財団	34,380 円	33
森育ちのしょうがクッキー	(福) 夢 21 福祉会まどか工 房	3,470 円	10
フィリピンバアヤン村コーヒー	珈琲工場&百屋 CGN(コーディリエラ・グリーン・ ネットワーク)	4,440 円	9
合計		113,076 円	

### 3) 震災支援事業

- ① 発生から15年経過しても、なお影響を受け続けている福島についてのパネルを店内に掲示し、私たちにできることは何かを考えようと呼びかけました。
- ② 気仙沼の海産物、女川のおからかりんとう、福島のごぼうチップスを店内で販売しました。

製品	支援団体	仕入額	販売数
三陸産さしみわかめ、 海のサラダ、焼き海苔 炙りいわし、岩井崎塩のスープ	(有)ムラカミ	10,875 円	28個
おからかりんとう	きらら女川	8,520 円	19 個
ごぼ～のチップス	(株)宗	4,930 円	7 個
合計		24,325 円	

【日時】 通年

【場所】 都筑区

【従事者】 運営委員6名

【受益対象者】 アジア等（フィリピン・イラク・シリア・パレスチナ・アフガニスタン・ミャンマー等）の市民、福島県・宮城県・神奈川県  
の市民

【事業支出額】 484,089 円

### 3. 地域市民の国際的な意識の自覚を促進する事業（共育活動）

- 1) WE講座 アフガニスタン「女性たちの学校」の今 をかけはし都筑で実施しました。

(2025年5月18日(日))

参加者 15人

講師 一般社団法人平和村ユナイテッド 代表 小野山 亮氏

アフガニスタンと会場を4台のPCで繋ぎ現地責任者と講師、そして出席者を交えての同時進行形式で行いました。質問者がPCの前で現地責任者と片言の現地語を交えたりしながらリアルタイムで質疑応答、直接対話し、深い交流の場となりました。会話を通して新しい事実や現実を知り、今のアフガニスタンの、タリバンによる一層厳しい弾圧の中、暴力による被害、家族間の教育に対する無理解や攻撃など胸を痛めるお話がありました。

金銭なサポートも必要だが、「私たちと一緒にいて欲しい」という言葉は深く心に刻まれアフガニスタン女性の存在を忘れず寄りそう気持ちを大切にしたいと思いました。

- 2) 支援キャンペーン「ガリラヤのシンディアナ～パレスチナとイスラエルの架け橋となって」を実施しました。(10月14日～10月18日)

イスラエル軍による様々な制約が厳しくなっている中で「架け橋となる」精神を忘れずに活動しているパレスチナの「ガリラヤのシンディアナ」に焦点をあてその活動や商品を紹介しました。

パレスチナ人、イスラエル人が一緒に共同組合のスタッフと運営している背景などをパネル展示しました。

店頭取扱でフェアトレード品のオリーブオイルとザアタルの試食をしました。

ガザ地区だけではなくパレスチナ西岸地区でも攻撃が続いており、高橋美香氏撮影のジェニン難民キャンプをメインとした写真を展示しました。

また、パレスチナにむけて私たちができることの情報を伝えるコーナーを設置し、BDS運動のチラシを用意しました。

その他にイスラエル大使への抗議葉書「ガザに平和を」を100円で販売し、葉書の売上げおよび募金はJVC パレスチナ・ガザ緊急支援への寄付としました。

### 3) リメイク講座「一緒に作りましょう 帯揚げで作る花束」をかけはし都筑で開催しました。(10月27日) 参加者9名

着物のハギレを使い、不要になったものも工夫して使うことや、手仕事の楽しさを伝えるリメイク講座を開催しました。今年は、帯揚げの光沢があり柔らかな特徴と華やかな色合いを生かし、チューリップの花束を作りました。参加者とメンバーが二人一組となって、楽しみながら作成することができました。

### 4) つづき人交流フェスタ（都筑区主催）に参加しました。(3月12日～3月15日)

活動紹介のパネルと、寄付品の見本を掲示し、来場者に小さな手作りカードを用意してWEショップのリサイクルと民際支援を紹介しました。

【場所】 都筑区

【従事者】 運営委員6名

【受益対象者】 一般市民

【事業支出額】 18,382円

## 4. 法人の事業の広報普及を図る事業（広報活動）

### 1) WE21 ジャパン都筑ニュースを2回（春、秋）発行しました。

	部数	内容	配布対象
4月	300	2024 支援先・支援額報告、2024 年度の活動概要・写真 WE 講座アフガニスタン「女性たちの学校」の今のお知らせ	会員・賛助会員・協力者へメール ショップ内配布、地域の配架

9月	3500	支援キャンペーン「ガリラヤのシンディアナ～パレスチナとイスラエルの架け橋となって～」のお知らせ 着物フェア、リメイク講座、子ども服お下がり交換会	会員・賛助会員・協力者へメール ショップ内配布、地域の配架 ボランティアによる地域配布
----	------	---	---

- 2) WE ショップつづき公式 LINE の画面下部に作成したリッチメニューにより、Instagram、店舗情報、HP、最新のニュース、今月のお知らせ、支援先のページにすぐにリンクできるようになり、WE ショップつづきの活動をわかりやすくお知らせできるようになりました。
- 3) HP、Google マイビジネス、Instagram、Facebook も活用し、情報発信に努めました。Instagram、Facebook へのアップは、複数メンバーで行っています。
- 4) セールのお知らせは、タウンニュースを利用してお客様に周知を図りました。WE 講座 アフガニスタン「女性たちの学校」の今、「子ども服おさがり交換会」、「JIM-NE Tチョコ募金」は、タウンニュースに取り上げてもらいました。センター南の地域情報発信サイト「ロコっち」に、ショップからの情報を載せてもらいました。
- 5) 都筑区民活動センター等への配架用チラシを作成し、ショップへの顧客拡大、ボランティア拡大につなげました。
- 6) 秋の支援キャンペーンでは、オリーブオイルの生産者 ガリラヤのシンディアナを紹介するパネルを作成して、店内に掲示し、チャリティショップとしての特徴をアピールしました。

【場所】 横浜市都筑区

【従事者】 運営委員6名 ボランティア 13名

【受益対象者】 一般市民

【事業支出額】 46,000 円

## 組織活動

### 1) 運営委員会

運営委員会は、年度はじめに日程を決め、毎月開催することができました。協議・検討事項については活発な意見交換もでき、円滑に運営委員会の役割を果たすことができました。

ショップ運営・組織活動については、方針に沿った実施計画をたて、運営委員による役割分担を明確化することにより、支障なく活動することができました。

会計、税務、法人運営の届け出等については、外部に委託しました。

### 2) 会員

会員および協力者の方々へはニュース、SNSを活用して、ショップの運営や様々な支援活動をお知らせし、WE21 ジャパン都筑の活動理念へのなお一層の理解・共感を深めてもらえるよう努めました。

また、活動を広くアピールするため「秋の支援キャンペーン」でのパネル掲示や都筑区役所区民活動センターやかけはし都筑へのニュースの継続的な配架、HPやインスタグラムなどのSNSの

積極的な活用を行いました、会員の増加には至りませんでした。

認定 NPO 法人として活動や寄付メリットの周知に務め、寄付者を募りました。

正会員実績 2025 年度末 27 名 (2024 年度末 31 名 退会 2 名 賛助会員へ異動 2 名)

賛助会員実績 2025 年度末 17 名 (2024 年度末 14 名 正会員から異動 2 名)

寄付者 2025 年度 個人 12 名 団体 1 計 303,000 円

### 3) ボランティア活動

今年度は、新たに 5 名の方をボランティアとしてお迎えすることができました。下半期よりシフト制を導入しましたが、ほとんどのボランティアが事前にシフト希望を提出、シフト調整に協力してくれるボランティアも多く、ボランティアだけでショップを営業する時間が増えました。前もつてのシフト申請が難しいボランティアもいますが、人手が必要な枠を LINE で知らせる等して、ボランティア活動を継続してもらえるように工夫しています。

リメイクチームは、リメイク講座の開催、WE21 着物・リメイクフェアに出店するなど意欲的に活動することができました。

### 4) WE 2 1 ジャパン・グループとの連携

- ・WE 2 1 ジャパン・グループ会議に参加し、運営に役立てました。
- ・WE 2 1 ジャパン主催の企画や講座（着物・リメイクフェア、スタッフ研修）、会員団体の講座（「パレスチナのちいさないとなくみ〜パレスチナ訪問報告とパレスチナの暮らし」、WE 2 1 ジャパン旭主催の「JVCパレスチナ報告会」）に参加しました。

### 5) 地域との連携

- ・つづき人交流フェスタにパネル展示とボランティア体験で参加。都筑区民活動支援センター、都筑区社会福祉協議会からは日常的にボランティア紹介をしてもらうなど、連携を深めています。
- ・つづき相談窓口オブザーバー参加し、参加団体の活動情報共有、フードシェア\*つづきの活動を共有しました。2月「自分探し応援団」に協力しました。つづき相談窓口のパンフレットを店頭に置きました。
- ・つづきMYプラザから依頼された、中高生ボランティアを受け入れました。(8/7~8、3名)
- ・子ども服お下がり交換会のチラシを区民活動センター、都筑区子育て支援センターぽぽらに置いてもらいました。
- ・お下がり交換会のお知らせは、生活クラブつづき commons のチラシに取り上げられ、チラシを見て来店した組合員に生活クラブからのプレゼントをお渡しすることで、生活クラブつづき commons とのコラボ企画となりました。

【場所】 横浜市都筑区

【従事者】 運営委員6名

【受益対象者】 一般市民

【事業支出額】 281,661 円